

第10号

An illustration of two smiling farmers, a man and a woman, wearing straw hats and holding large ears of yellow corn. The man is on the left, wearing a blue shirt, and the woman is on the right, wearing a pink shirt. They are both holding their corn cobs with green husks. The background is a light green field with a brown fence and a blue sky with a few clouds. The letters 'J' and 'n' are visible on the left side of the page.

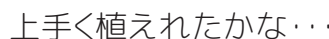
よう。
(文責 原田浩明)

昨年度から実施している「集落活性化モデル構築事業」の一環で、2年目の今年度は実践編です。11月のレンコン収穫イベント用に用意した、約60キ口の種レンコンを指定されたラインに沿って、代播きされた田んぼに植え付けていきました。11月のイベントまでには、きつと大きく育っていることでしょうか。（文責 原田浩明）

マル事業
実践編
いよいよ始動！
レンコンファーム
三秋

みあきに新たな名所出現か!?

祝
、
花
又
鑑
賞
会



「清らかな心」：何と美しい言葉でしょう、三秋の雰囲気にぴったります。

これは、蓮の花言葉。池や湖などの泥水からすつと伸びて神々しいばかりの花が開く姿を表現しているそうです。

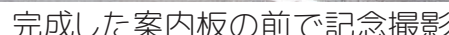
いま、三秋集会所横の水田には、まさにその花蓮が華麗に咲き誇っています。

集落活性化モデル構築事業の1プロジェクトとして田んぼをレンコン圃場に改良し、4月に種レンコンを植え付け

た成果が、今夏、花ハス開花として実現した。

8月4日(日)午前、ここ

で開催された花ハス鑑賞会。我々参加者はしばらくその美しい花弁に釘付けとなり、その後、田んぼの入口に「レンコンファーム三秋」の看板を設置。この看板、業者に発注したと思いきや、皆さんの手造りだそう。なぞ緑色?ロードバイクの絵?コーヒーカーツプ?」等々ツツコミ所があ



満開のハスの花

材を使った料理を満喫できる。ついでに三秋食堂が脳裏をよぎる。いまですに三秋旅館も作ってしまいませんか。近年は宿坊での精進料理も秘かなブームです。あれっ、それならいいお寺がありますよね、曹洞宗の。花ハスから話しが飛躍してしまいました。レンコンは穴を通して先を見通すと言われる縁起物、三秋地区の未来を託すのにぴったりのテーマかも知れませぬ。（文責 吉田克浩）

るの——興奮、圍場整備から植
え付け、看板に至るまで、全
て手造りである事にこそ大き
な価値がある。

私事ではあるが、かつての
勤務地滋賀県には琵琶湖があ
り、その烏丸半島周辺には、
国内最大級のハス群生地があ
る。ここを通る度に友人と「こ
の下には何年分のレンコンが
あるんやろ?」と盛り上がり
た事を思い出す。一生レンコ
ン食は勘弁して欲しいもの
の、素揚げ好きな二人であつ
たが故の話題。

雄大な自然の中で、地産食

11月イベント開催決定!



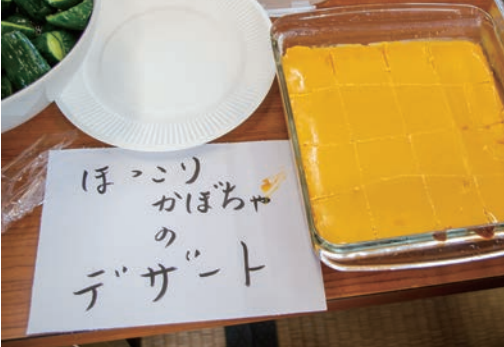
山とその周辺
○その他
三秋以外からの集客も
予定
収穫体験と登山について
は人数制限あり

詳細については決まり
次第、チラシや公式ツイ
ッターにてお知らせする
予定です。



べ
ら
る
か
も
し
れ
な
い
と
聞
き
ま
し
た

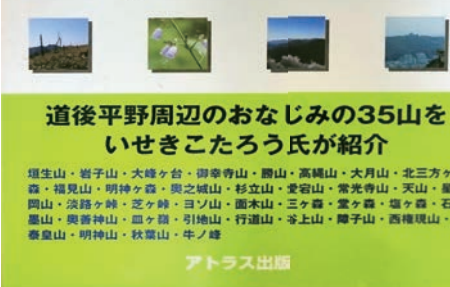
そのレンコンが11月には食



みあき産カボチャで作ったプリン

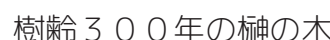
(文責・岡田有利子)

「松山周辺道後平野から望む山の楽しみ方30章」いせきこたろう アトラス出版



単なる登山コースのガイド本ではない、地域を楽しむコツが、山歩きを通して詰め込まれた本である。例えば明神山の紹介では、祀られている降雨の神や三秋の遥拝所に降ろされた山頂の社、三秋の大池が記されている。山にまつわるあらゆるモノゴトが掲載されており、伝説や歴史・地形等からわかる名前の由来なども大変興味深い。この本を携えて山歩きをすると、体験と知識が重なり、いつも何気なく見ていた山が、そしてその地域が愛しくなる。ひいてはあなたの何気ない日常も楽しくなるかもしれない。

(文責・中藤真里)



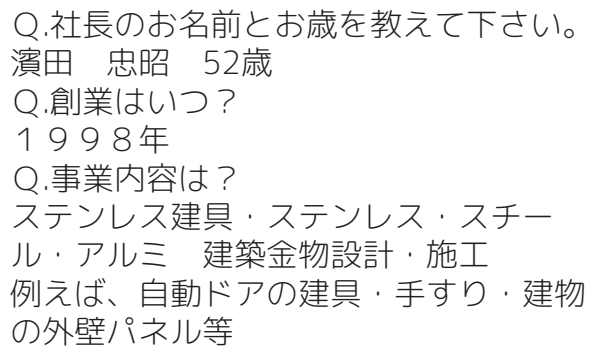
XX

編 集 後 記

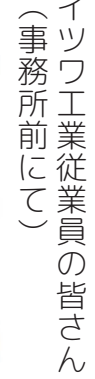
あり運転の話題が連日報道されるようになって、ドライブレコーダーの重要性をひしひし感じる今日この頃です。皆さんの車は付けてます？残念ながら私はまだなんです・・・。あんな悪質ドライバーがいるのかと思うと、一刻も早く付けねばと思っております。ところで、次号の地域新聞みあきですが、「集落活性化モデル構築事業」を受けてる三秋以外の2地区（愛南町緑地区と松野町松野町蕨奥地区）にも寄稿して頂き、それぞれの地区が紙面一面に思いのたけを語って頂く、3地区合同号を発行する予定です。3地区全戸に配られる予定になっておりますので、お楽しみに。尚、今回の合同号発行に伴い、第11号については、次の次の発行（翌年5月）になる予定です。（ひろ）

三秋の企業にズームイン!!

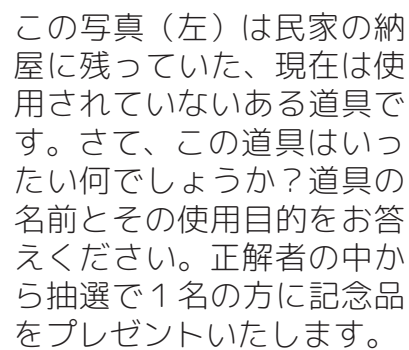
代表取締役インタビュー ～株式会社イツワ工業 編～



Q.事業規模と従業員は何名？
三秋地区内に工場3か所と事務所
従業員数13名 平均年齢40歳ぐらい
Q.三秋地区に事業所を置かれたのはいつから？
1999年に第1工場、そして現在の事務所は2016年から。
Q.三秋地区の感想は？
自然豊かで近隣住民の方がとても優しい。
Q.最近の業界の懸案事項・課題は？
若い人がなかなか入ってこないこと。
Q.今後の会社の予定は？
現在の工場が手狭になっているので近いうちに拡張する予定。
Q.住民の皆さんに一言
工場からの騒音で、近隣の皆さんにご迷惑をおかけしておりますが、今後とも宜しくお願い致します。



読者プレゼントコーナー ～クイズこれってな～に?～



応募方法

①クイズの答え（道具の名前とその使用目的） ②住所

③氏名 ④年齢 ⑤電話番号 ⑥本紙の感想
を明記の上、郵便ハガキもしくはEメールにてご応募ください。

宛先 〒799-3124 伊予市三秋甲2 7 1-2 地域新聞みあき事務局 宛
Eメール info.miaki@gmail.com
応募締切 **2019年11月30日(土)必着**
当選発表 本紙第11号にて

※ご応募いただいた皆様の個人情報は事務局にて厳重に管理し、プレゼントの発送以外の目的では使用いたしません。



皆さんの家に古い写真が眠っていませんか？昔の風景やお祭り等、三昧に没頭する昔の写真がございましたらご連絡下さい。また、その世の良高・情報・写真も随時お待ちしております。★あさの○○○★私の絶景 etc...
お近くの当会が編集委員会もしくは、メールにてご連絡下さい。

 info.miaki@gmail.com

おしらせ

先進地域視察
～愛南町緑地区と
静岡県賀茂郡松崎町～
(文責) 玉井 敬信



『まるごと緑』の活動について聞く(緑公民館にて)

ご存知の通り、昨年度より我が三秋が、県の集落活性化事業のモデル地区として指定して頂き、今日まで様々な活動をしてきました。この事業では、モデル地区としての2地区の内、愛南町緑地区は、我々よりも早くから地域活性化の活動をされており、今回身近な先進地域として視察と情報交換を兼ねて、6月2日(土)3日に掛けて表敬訪問させて頂きました。まず、緑公民館にて、地域活性化団体「まるごと緑」の木村俊介・森裕之両氏から、「愛南の魅力体感ツアー」・「力2獲得プロジェクト」等の体験プログラム、空き家を活用した「ジムの解体処理所」の設置、団体の運営体制及びNPO法人化に向けての考えについて等幅広くご説明頂きました。一方、予定していた狩猟同行ツアーである「ジューガイツ」は、雨天のため残念ながら実施出来ず、代わりに木



鹿肉の解体見学(木村氏宅にて)

村氏宅における鹿肉の解体見学をさせて頂きました。また、話し合いの中で、今後11月23日に三秋地区が開催するイベントにおいて、同地区団体も参加・協力していく事となりました。



松崎町の全景(MTB初心者コースより)

次に、「みあき明神山古道復活・再生プロジェクト」に関して、古道を復活・再生して、マウンテンバイク(MTB)ツアーとして活用されている、静岡県賀茂郡松崎町にある『(株)ベースストレス』へ、6月20(土)22日に掛けて訪問しました。そこで、同社が実施しているマウンテンバイクツアーへ参加すると共に、同ツ



MTB古道コース上にて説明を受ける

理・整備・運営や、地権者との交渉及び今後の課題等について聞き取り調査も実施しました。これにより、マウンテンバイクルートと登山道との違いはあれど、古道再生を実施するに当たっての注意点や、管理・整備・運営についてのエクトの指針として行っていく方向性が明確になりました。



(株)ベースストレス事務所にて(壁や机の木は間伐材)

今回の2地区への視察に際しては、愛南町緑地区については、今後の相互の様々な活動と相乗効果を挙げる取り組みの約束、静岡県賀茂郡松崎町に

つては、今後の「古道復活・再生プロジェクト」の方向性・指針の取得という、それぞれについて大きな成果を挙げることが出来たと思っております。これらの成果に従いつつ、11月23日のイベントに向けて着々と動いていきたいと思っておりますので、皆様のご協力を宜しくお願いいたします。

西願寺に奉納された
「唐津山音右衛門」
名の磁器
(文責) 日山 貞治



西願寺に残る三島焼

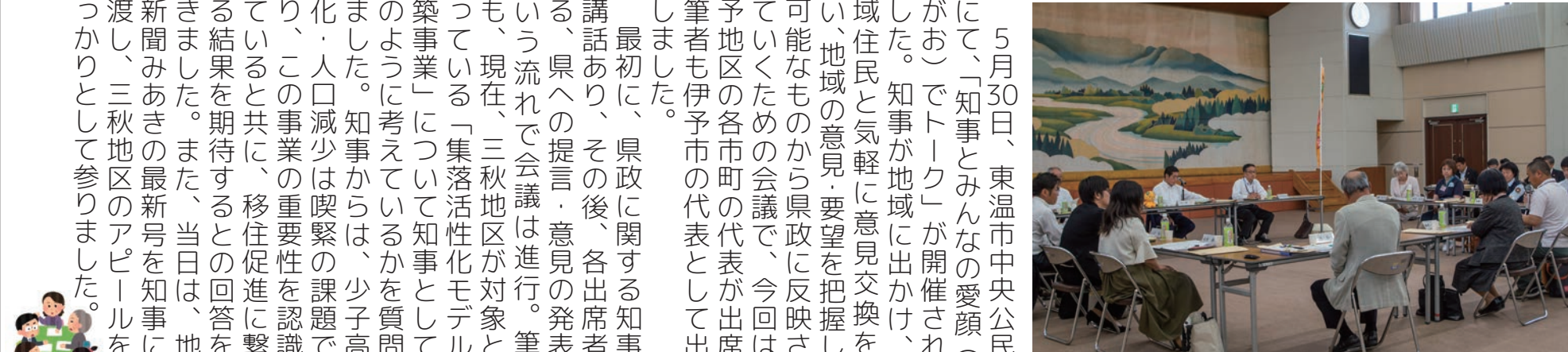
江戸時代の後半、文政元年(1818)に市場村の佐伯家から金岡音右衛門が窯を譲り受け三島町で始めたのが金岡窯の始まりです。その後、音右衛門は、幕末の頃長崎で「酸化コバルト」・青い絵付けの薬品を得てから、金岡窯の製品は面目を一新することができました。明治になって、亀造(二代)・定蔵(三代)が継承し、明治の中頃には製品は一段と進歩し、三島町の陶磁器が家庭用品として一般に重宝されるようになりました。ちなみに、三島町では窯場のことを、唐津山(からつやま)と呼んでおり、江戸時代末期には、金岡窯は通称唐津山音右衛門の屋号で通っていました。皆さんの家庭にも、明治から大正にかけての三島焼の陶磁器が残っているかもしれません。探してみてもいい

かがですか。
参考文献 近藤英雄 著『伊予市三島陶磁器の歴史と風物詩』
ドキュメント72分
交通安全活動推進
委員の活動に密着
(文責) 原田 夏子



一日警察官委嘱式(折井さん右奥)

『みあきにこの人あり』(本紙第5号)でご紹介した、折井敬之さんに密着。交通安全活動推進委員としてのある日の活動に同行した。
5月15日午前10時過ぎ、伊予警察署西側駐車場。伊予警察署長をはじめ、交通安全活動に関係する方々、そして、今年の五色姫に認定された5人の姫たち。この日、「五色姫一日警察官交通安全街頭キャンペーン」が行われ、折井さんたちのこうした啓発活動の積み重ねにより、地域の交通安全が保たれているのだと実感した72分だった。



中村知事と意見交換(東温市)

知事！ 質問です
(文責) 原田 浩明

安全確認の大切さ
(文責) 原田 浩明



信号機のある交差点での左折

5月13日、北山崎小学校体育館にて自転車教室が開催されました。子供たちは、乗りなれた自分の自転車を持ち、安全協会の方々より指導を受けながら、自転車の安全な乗り方や交通ルールについて、しっかりと学んでいました。



一時停止の標識ではしっかり止まろう

逆転サヨナラ本塁打！
(文責) 原田 浩明

北山崎体育会による地区対抗球技大会が6月7日(土)16日に開催され、卓球、グラウンドボール計4競技の熱い熱戦が繰り広げられました。我が三秋地区からも全競技にたさんの方が出場され、卓球は準優勝、ソフトボールに女



卓球女子準優勝

おいては、決勝戦サヨナラ逆転2ランで、見事優勝という輝かしい成績を収めました。



サヨナラ本塁打でハイタッチ！



三秋チーム優勝(ソフトボール)

ホテル観賞会に参加
して
(文責) 岡田 有利子



世界に一つだけの提灯を作る子供たち

初参加のホテル観賞会、地区外からの参加でありながら、大変あたたく迎えて頂いたことに感謝している。世界に1つだけの自分で作成した提灯を持ち、ホテルを求めた歩いた道すがら、家族で、あるいは隣り合ったもの同士、さざめきながら進んでゆく。1人で参加した私自身も、地域の方から大池や三秋川、明神山、西願寺、ソテツ、レンコンの話、そして「地域新



提灯を片手にホテルを探す

「聞みあき」が生まれた経緯などを教えて頂いた。また、聞こえてきた会話の数々も心地よかった。こつちにホテルがいたよ！という子供達の元気な声、そして走る彼らを心配するお母さんの声、「どうしたのか、歩かんの、しんどいんか」とお連れ合いを気遣う優しい声。両手内に閉じ込めたホテルをプレゼントする口マンチックな一幕も微笑ましい。そこには、地域新聞みあきの創刊号に書かれていたような、地域の老若男女が楽しめる「小さな何か」があった。大事なことは共有する時間の積み重ねである。これが無ければできない、ではなく、共有したいという思いがあれば地区行事はできると感じた。必要なことは特別な何かではなく、ささやかだけれども確かであったかい地域の何気ないぬくもり、そしてそれを表現するためのアイデア・工夫・熱意ではないかと思う。しっかりとした地域の土台が、このホテル観賞会で作られている。この日の「コマを、大人も子供達もふとしたこと



抽選会でみごと特賞をゲット！

第12回わくわく体験キャンプを、令和元年8月17日、18日の2日間行いました。今年も昨年と同じ場所、西願寺での開催となりました。県内外から集まった子ども達16人、そしてスタッフとしてVYS一般会員や高校生会員19人の総勢35人で協力して行いました。さらにキャンプ地元の三秋の方々の協力もあり、盛り上がり、夜も更けてからは肝試しもして夏の夜を楽しみました。
2日目はキャンプ地がお寺ということもあり、玉井和尚のご協力のもと、座禅体験をさせて頂いた頂きました。その後、オリエンテーリングと夏野菜の収穫体験を行いました。折井さんに先導して貰いながら、畑まで歩きました。道中、地



冷やしキュウリの試食

お昼にはピザ窯を用意し、講師の河内さんの指導のもと、ピザ作り体験と試食をしました。熱々を食べることができ、子ども達は口々に美味しい！と言っていました。お別れの時はまた来年も行きたい！とか、絶対行くからなど嬉しい言葉を子ども達から聞かせてもらい、良いキャンプにすることができたんだと実感しました。

夏の子どもキャンプ
(文責) 谷本 和之



キュウリの収穫体験

元三秋に関する問題など全12問を解き、時にはチェックポイントとして立ててくれた地元の方(仙波さん、日山さん)にヒントをもらって楽しく歩きました。
畑到着後は、収穫する野菜であるキュウリについて、講師の吉岡さんのお話を聞き、知識を深めました。いざ収穫体験、今年は地元の原田さんの畑をお借りしました。大きく美味しそうな育ったキュウリをハサミで採る体験はなかなか経験できなかった。新鮮な気持ちになりました。休憩時間には朝早く用意してくれて美味しかったきゅうりを食べさせていたいただきました。よく食べる子は4本も美味しそうに食べていました。
お昼にはピザ窯を用意し、講師の河内さんの指導のもと、ピザ作り体験と試食をしました。熱々を食べることができ、子ども達は口々に美味しい！と言っていました。お別れの時はまた来年も行きたい！とか、絶対行くからなど嬉しい言葉を子ども達から聞かせてもらい、良いキャンプにすることができたんだと実感しました。